

研究テーマ:リーディングの苦手意識をなくすにはどのように指導すればよいか。

所属 高知県立室戸高等学校
氏名 坂谷 芳子
RG SH1

1 研究の背景

担当している3年次のリーディング(4単位)クラスは、ほとんどの生徒が進学を希望しており、生徒の意識も比較的高い。上位の生徒はセンター試験を目指して意欲的に取り組んでいる。このクラスは3年間持ち上りの生徒も多く、昨年度まではオーラル活動・音読活動・ゲーム形式の語彙インプットなどを取り込み、楽しい雰囲気で行えていた。しかし3年次になると受験も意識しなければならず、楽しい活動ばかりで教科書を進めるわけにもいかない。教科書のレベルも上がり、音読練習なしでいきなり本文を読み進めることに抵抗のある生徒が多い中、どうすれば楽しい雰囲気の入試レベルの読み物を読んでいけるのだろうか？

2 リサーチ・クエスチョン

リーディングの苦手意識をなくすにはどのように指導すればよいか。

3 予備調査

①授業観察の結果<リーディング文系クラス(32名)/使用教科書 NEW HORIZON English Reading>
進学用のクラスであるが、生徒の能力はまちまちで、支援を必要とする生徒はbe動詞も定着していない。集中力がなく、読解問題などになかなか落ち着いて取り組むことができない生徒も多い。人数も多く生徒間の格差がある中の一斉授業には限界も感じるが、明るく元気な生徒が多いため音読練習や発音練習などで雰囲気を盛り上げている。

②生徒の英語学習意識<4月に行ったリーディング授業に対する意識調査より>

- ・2年次の英語Ⅱに比べ3年次のリーディングが少し難しくなったと感じている生徒が多い。
- ・単語の発音練習・教科書の音読練習・リスニング活動・ペア活動などには比較的良好に取り組んでいる。
- ・読解問題になると集中して取り組めなくなる生徒がみられる。
- ・長文問題に苦手意識を持っている生徒がほとんどである。

4 仮説の設定

仮説1 生徒の苦手意識を取り除くためには、長文のハードルを低くすることが有効ではないか。

→あらかじめ和訳を教えておく、予備知識を与える、語彙のインプットをする。

仮説2 リスニング活動で音声の導入をしておくと、読む活動へスムーズに移れるのではないか。

→本文を読む前に、リスニング活動をする時間を設ける。

仮説3 音読活動は正しい発音を身に付け、英語のリズムに慣れることができ、また英文を身近に感じる事ができるという点で、非常に有効ではないか。

→本文全体を音読する時間を取るのは無理なので、音読パートを決める。

仮説4 ペア活動の利用は、お互いに責任を持たせることができるので有効ではないか。

→音読活動、暗記活動などをペアで行う。

5 計画の実践

実践1 レッスン中に出てくる重要表現(熟語・構文・会話表現等)のリスト(25問)(=達人プリント)をあらかじめ配布し、授業中に暗記させた。90秒の時間の中で覚えた表現をいくつかをペアでチェックしあった。

実践2 2年次までは単語リストを配布し授業の初めに小テストを行っていたが、新出単語の数が多すぎることに、知らない単語が多少あっても長文を読む力をつけてほしいこともあり、代替りの活動として、長文を読み、日本語の表現に相当する語(句)を探すワードサーチ活動を行った。

実践3 音声導入として、「達人プリント」の語彙を聴く活動、聴き取れた語(句)をできるだけ多く書き取る活動、T/Fクエスチョンなど、本文を5~6回聴かせるリスニング活動を行った。

実践4 音読パートを決め、ペアで、一斉で、個人でと活動内容にバリエーションをもたせながら音読活動を行なった。

行った。ペア活動は楽しく行えるし、最後はパート全体の暗記を目標としているため生徒も意欲的に取り組んだ。

6 実践の結果

当初はワークシートの読解問題に取り組もうとせずただ答えを待つ生徒が多くいたが、あらかじめ語彙のインプットをすることで取組姿勢が改善された。また読む活動だけでなくリスニング・音読・ペア活動などバリエーションを持たせることで生徒の集中力が持続した。読む活動も、速読・精読を組み合わせたり、難易度にバリエーションを持たせることで問題に取り組む姿勢が改善された。

しかし1学期が終わった時点でも相変わらずリーディングに苦手意識を持つ生徒がいた。現時点ではハードルを低くして長文を読ませているが、実際の入試では十分に対応できるのか、という不安が残った。2学期以降、より定着を図るため音読筆写活動やマッピング活動を新たに取り入れた。また好評のワードサーチ活動は継続して行うことにした。

7 結果の検証

仮説1 「達人プリント」や「ワードサーチ」の活動は楽しみながら語彙のインプットが行うことができる。語彙インプットの活動に時間を割かれることを心配していたが、結果的には生徒の意欲を高め、読む作業の効率も上がった気がする。特にワードサーチ活動には非常に熱心に取り組んでくれ、普段はにぎやかなクラスがシーンと静まり返る時間は快感である。生徒もワードサーチ活動を通して一定の達成感を感じているようだ。

仮説2 タスクを設定したリスニング活動を繰り返し行った。何度も聞くうちにディクテーションの活動では聞き取れる単語数が増えていき、中には4、5語ぐらいのまとまった語句が聞き取れるようになった生徒もいた。音声の導入をしておく、読む活動にも音読活動にもスムーズに移れるようである。

仮説3 音読活動は授業中の活動の中で、生徒が一番元気になる時間である。あまり頭を使わなくてもよい安心感もあるだろうし、ペア音読ではパートナーとコミュニケーションをとることができる。

仮説4 「達人プリント」の活動ではペアでチェックをし合うので、パートナーとの間に競争意識や協力意識が芽生え意欲的に取り組むようである。ペアの決定は細心の注意を払って行わなければならない。

生徒のアンケート結果

①教科書のレベルは？	簡単	ちょうどよい	少し難しい	とても難しい
4月	2%	34%	46%	18%
12月	0%	51%	40%	9%
②長文問題に対するあなたの意識は？	得意	割と得意	少し苦手	とても苦手
4月	0%	4%	36%	60%
12月	0%	7%	58%	35%
③文章中に知らない単語が沢山あると？	気にせず読み進む		気になって読めなくなる	
4月	59%		41%	
12月	71%		29%	

8 成果と今後の課題

対象学年が3年生だったため、1学期はよくがんばってくれた生徒も、2学期になると受験で抜けたり、また推薦で進路が決まるとやる気を失ったりと、思い通りには授業が行えなかった。しかし、このクラスは3年とは思えないほど非常に活発で雰囲気も良く、最後まで元気よく音読活動を継続できた。4月には長文読解に苦手意識を持つ生徒が多かったが、ワードサーチや音読活動など様々なタスクを与えて何度も読ませたことで、苦手意識を持つ生徒が多少なりとも減ったことが成果である。また、難しいながらもリーディングの授業は楽しい、と前向きな姿勢を持つ生徒が多いことも救いである。課題としては、生徒が各活動の意図を理解できないまま活動をしてきたことである。この活動をすればこういう力が付く！という確信がないまま活動を行ったため、結果として、こういう力が付いた！という達成感や実感を与えてあげられなかった。達成感が持てないと生徒はやる気を失うので、小さな達成感を継続的に与えられるような指導が必要だと思う。しかし、具体的にどうすればよいのかは現在模索中である。